



▲毎月末の日曜に開かれるようになった南三陸復興市で和太鼓演奏を披露する北部方面隊の隊員たち。撤収が近づき、力強い演奏を聞かせてくれた。

南三陸町に派遣された自衛隊員たちは、2011（平成23）年8月まで幅広い活動を展開していた。その間、避難所や給水、炊き出し、入浴、イベントなどの際に多様な交流が行われた。沖縄からの隊員は、子どもたちに三線を教えたり、活動の合間に子どもたちと遊んでくれた。また、たくさんの写真や思い出の品を瓦礫の中から丁寧に見つけ出してくれた。

過酷な環境の中、骨身を削って活動している隊員たちの姿に、私たちは口々に感謝の言葉を伝えた。

隊員たちをもてなしたい気持ちはあったが、それができないことに住民の誰もがもどかしさを感じていた。

その誠心誠意の活動は、「自分たちもあきらめずに、がんばらなければ」という強いモチベーションを私たちに与えてくれた。

自衛隊は私たちのヒーローだった。



▲自衛隊への感謝を表す横断幕が町のあちこちに掲示されていた。

写真提供 陸上自衛隊北部方面隊